

令和7年度 第1回広島市地域公共交通会議 議事録

1 日 時 令和7年6月3日（火） 14:00～14:45

2 場 所 広島市役所 14階 第6会議室

3 出席者

(1) 委員

広島工業大学 伊藤会長、広島県バス協会 山根委員代理、
広島県タクシー協会 稲益委員、私鉄中国地方労働組合 後藤委員、
広島市老人クラブ連合会 堂本委員、広島消費者協会 栗原委員、
中国運輸局広島運輸支局 藤本委員、広島市道路交通局道路管理課 余頃委員
広島市道路交通局公共交通政策部 橋本委員

(2) 事務局

広島市道路交通局公共交通政策部路線バス・生活交通担当
三浦課長、淀川専門員、中尾技師、屋地主事

(2) 説明者

ひろでんモビリティサービス㈱ 大黒営業部長、広島電鉄㈱ 吉松課長、廣田係長

4 議 題

【第1号議案】

スマートムーバー（五日市湾岸地区実証実験）における定時定路線型運行の導入について

5 議事概要

第1号議案について、原案どおり了承された。

以下、質疑応答

（藤本委員）

乗用タクシーとの競合が懸念されるが、タクシー事業者との調整状況を教えて欲しい。

（広島電鉄㈱ 吉松課長）

広島県タクシー協会及び運行区域付近のタクシー事業者に事業概要を説明しており、いずれも了解をいただいている。

（藤本委員）

本事業の実施により、地域内の移動が活発になり、貴社及び周辺のタクシー事業者のいずれにもメリットが生じるような結果になることを期待している。

この度、定時定路線型の実証運行を実施するに当たって、現在のオンデマンド型と共通の停留所もあると思うが、法律上、定時定路線型の停留所には原則他の車両は駐停車してはいけないこととなっている。貴社の整理や調整状況について教えて欲しい。

（広島電鉄㈱ 吉松課長）

法律上、乗合自動車の停留所から10メートルの範囲は駐停車禁止となっている。この度のオンデマンド型と共通の停留所としているケースについて、私有地内の停留所に関しては、法律上の駐停車禁止に係る規制の対象外であること、また道路上の停留所については、既存の路線バスの停留所と10メートル以上離していることから、問題がないことを中国運輸局旅客第一課に確認済である。

(栗原委員)

現在のオンデマンド型の運行について、資料にある平均待ち時間が約 14 分、また、予約後のキャンセル率が 13%という状況は非常に大きな課題であると思う。オンデマンド型の運行にこういった課題があるため定時定路線型を実施するという認識だと思うが、オンデマンド型でこうした課題を解決する方法は考えなかったのか。

(広島電鉄㈱ 吉松課長)

運行開始以降、利用が増え、乗り合わせの人数も増えていく中で、待ち時間の増加やそれに伴うキャンセル率の増加が生じている。

こうした状況の中で、地元から改善を求める声もあり、バス停での待ち時間が比較的少なくなる定時定路線型の運行を開始するものである。

(栗原委員)

例えば、オンデマンド型の運行台数を 1 台増やすなどして改善はできなかったのか。

(広島電鉄㈱ 吉松課長)

車両を増やすことも改善に繋がるとは思い検討したが、車両と運転手が不足している状況から実施は困難であった。

また、昨年度弊社で行った住民アンケートなどにおいて、定時定路線型で運行して欲しいという意見があったことも受け、地域の社会福祉協議会等と協議の上、運行形態の見直しに至った。

(栗原委員)

移動円滑化基準の適用除外について、適用除外を行うために対象の車両を選んでいるということはないか。

(広島電鉄㈱ 吉松課長)

そのような事実はない。

(稲益委員)

私は第一交通の社員でもあるが、グループ会社のはと第一交通において、広島市では初となるデマンド型の乗合タクシーを戸坂地区で運行しているところである。

この度の実証運行が成功し、地域の足が確保されることに期待している。当方としても委員の方々のご意見を伺いながら、地域の足の確保に前向きに取り組んでいきたいと思う。

(伊藤会長)

当地区でのオンデマンド型の運行は、コロナ禍と同時期に開始されており、困難もあったものと思うが、地域の需要を上手に掘り起こしながら継続してもらっている。運行事業者としては、ルートと時間が決まっている定時定路線型の方が効率的に運行できると思うが、この度の実証運行については、利用者の声を聞きながら、オンデマンド型と定時定路線型を上手に比較検討しようとしている事例であると認識している。

この度の実証運行について、オンデマンド型は令和 8 年 3 月まで、定時定路線型は令和 8 年 1 月までということだが、実証運行終了後、運行を継続していくための条件や見通しを教えて欲しい。

(広島電鉄㈱ 吉松課長)

オンデマンド型の運行は令和 2 年度に開始して以降、1 年ごとに実証運行期間を延長している。オンデマンド型と定時定路線型のどちらが地域の実情に適した運行形態なのかをこの度の実証運行で分析し、利用実績などの結果等を踏まえ、本格運行への移行などについて検討していく。

(伊藤会長)

ぜひ、地域の足として根付くように取り組んでいただきたい。
特に反対意見はなかったので、原案どおり承認とする。